

第329回山口西田読書会(2023年4月22日開催分)の Protokol

奈原伸雄

1 テキスト

「場所」「四」の第4段落 267頁5行目から 268頁3行目まで

2 キーワードないしキーセンテンスと考察ないし問い

(1) キーセンテンス：「眞の無の場所は有と無が重なり合った場所なるが故に、作用の対象は何處までも對立的でなければならぬ」。

(2) 考察と問い：この文は、「有と無の矛盾が根本にあるから」「作用の対象は何處までも對立的でなければならぬ」と解釈された(読書だより(23.4.25))。しかし、「矛盾」が単純に「對立的で」、しかもこれを包むべき「眞の無の場所」で「何處までも對立的でなければならぬ」という意味が理解できない。「すべての物は對立によって成立するというならば、その根底には統一的或者が潜んでいる」(『善の硯』二編五章)はず。従ってここで「對立」が強調されるのは、「判断作用」を「感覺」との差異を際立たせる一種の修辭と解する。